

ブラジル
アマパ・イニシアティブ
現地からのお便り（2019年7月～2020年6月）

2020年8月
コンサベーション・インターナショナル

ブラジルにおける「“空気をはぐくむ森”プロジェクト」は、アマパ国有林とアマパ州有林という2つの保護地域の保全に貢献しています。活動を通じ、自然資本を守ることによって、人々の幸福にとって欠かすことができない生態系サービスを提供しつつ、2つの保護地域の内部及びその周辺に住むコミュニティの生計を改善することを目指します。

プロジェクトでは、2014年から3年間に集中して、地元組織を強化し、持続可能な林業と非木材林産物の生産を支援し、生態系に配慮した自給用作物栽培方法の導入を進めました。それを土台とした新しいプロジェクトも立ち上げられています。2018年、アマゾン基金の支援で開始した「持続可能でレジリエントなタパジヨス（アマゾンの支流の一つ）」は、アマパ州の隣のパラ州において、地元組織の強化を通じた持続可能な林業と非木材林産物生産を推進する取り組みです。今年、同じ地域で森林再生の取り組みも開始しました。2019年、州知事気候と森林タスクフォース（GCF-TF）の支援で「気候変動対策のための森林：アマパ州における生態系サービスへの支払い（PES）とREDD+のための州制度」もはじめています。

CIは、アマゾン地域の持続的な発展のため、パートナーと連携した取り組みを継続しています。今回のお便りでは、2019年7月から2020年6月までに地元政府との連携で実施された活動内容をお届けします。

組織の強化

コミュニティによるビジネスは、地域に社会経済的な便益をもたらすことができます。その実現のためには、地元組織が重要であり、私たちはボンスセソ協会の強化に取り組んできました。

しかし、企業としての機能を担う組織では、ある程度の対立は避けられません。対立はまた、組織として成熟する過程としてとらえることもできます。ボンスセソ協会においても、近年、内部の対立に直面してきましたが、協会を率いてきた女性のグループが新たな組織を立ち上げるに至りました。新たな組織の名前は、アラグアリ川農採集女性協会（別称、森の種子協会）です。短期的には決裂というネガティブな出来事ですが、2つの組織が地域の便益のために協力できるようになれば、中長期的には地域のさらなる強化につながると考えています。

森の種子協会の設立に伴い、販売競争力を高めるため、製品に使う新しいロゴも作成しました。



図 森の種子協会のロゴ

非木材林産物の管理

非木材林産物を原料としたバイオ化粧品やアサイーの生産販売を進めてきました。バイオ化粧品の生産に関わる人数は15人から25人に増え、ボンスセソ協会と森の種子協会の両協会がサプライチェーンに関わっています。活動への参加者は、非木材林産物の管理に関するトレーニングコースの受講、小規模な工場の設立、必要な機器の導入を進めています。



図 アサイーに関するトレーニング（左）、アンディローバの持続可能な管理（右）

社会に貢献する生物多様性由来の製品への需要が増加し、コミュニティから定期的に製品を購入する契約を結びたいという企業が増えています。しかし、ボンスセソ協会の分裂により需要に応えられておらず、現在、組織を整えているところです。



図 ボンスセソ協会の製品

コミュニティによるエコツーリズム

チコメンデス生物多様性研究所（ブラジル環境省の関連機関）がアマパ国有林におけるエコツーリズムの行程やガイドライン作成を目的としたワークショップを開催しました。



図 コミュニティによるエコツーリズムに関するワークショップ

コミュニティは、3日間の行程のツアー客を受け入れ、関わった15家族が収入を得ました。しかし、コロナの影響により、現在ツアーの受け入れは中断し、ツアーの宣伝に焦点を当てた計画を練り直しています。コロナが収束した後、エコツーリズムを再開できるのを心待ちにしています。

林業（木材生産）

昨年のアマパ州政府の組織改編の影響が続いています。それまで森林政策全般を担ってきたアマパ州森林機関（IEF）とライセンス発行を担ってきた環境・土地計画機関（IMAP）が廃止され、林業分野の技術的なサポート機能はアマパ地域開発機関（RURAP）に、ライセンス発行は州環境局（SEMA）に移管されましたが、共にまだ動き出していません。そのため、進捗はありませんでした。